

集落支援員活動報告

～ 地域内外のつながりを育む取り組み ～

令和8年3月30日

農林水産課 田中あき

背景・目的

地域の現状	活動の目的
<ul style="list-style-type: none">• 高齢化・担い手不足• つながりの希薄化• 地域外との関わりの少なさ	<ul style="list-style-type: none">• <u>関係づくり</u>の再構築• <u>関係人口</u>の創出

活動概要

活動開始: 令和3年～(令和7年～集落支援員)

活動場所: 江里山地区

主な取り組み



① コミュニティづくり



② 棚田の活用・保全



③ 広報活動

取り組み①(コミュニティづくり)

江里山座談会 の実施

- 定期的な
意見交換の場
- 暮らしや知恵の
共有



取り組み①(コミュニティづくり)

江里山座談会 の実施



「話す場が関係づくりの起点になる」

取り組み②(棚田の活用・保全)

棚田の保全活動

- 地域内外の参加者による共同作業
- 農作業を通じた自然な交流



取り組み②(棚田の活用・保全)

棚田の保全活動



「作業を共にすることで**関係が深まる**」

取り組み③(広報活動)

SNSの活用・ 出前講座

- 地域の情報を外部へ発信
- 出前講座の実施
- 関わりのきっかけづくり



取り組み③(広報活動)

SNSの活用・
出前講座



「**地域との接点**をひらく入り口に」

成果

地域内の変化	地域外とのつながり
<ul style="list-style-type: none">• 会話・交流の増加• 主体的な関わりの広がり	<ul style="list-style-type: none">• 継続的に関わる参加者の増加• 若い世代の参加

小さな関わりの積み重ねが変化を生んでいる

第三者視点で見えた良いところ

- 棚田や暮らしの中にある豊かな地域資源
- 外部人材を受け入れる温かさ
- 「一緒にやる」文化が残っている

関わりしろのある地域であることが強み

第三者視点で見えた課題

- 担い手の固定化・高齢化
- 活動の継続に対する負担感
- 外部人材との関係づくりの仕組みが未整備

今後の発展に向けた検討の余地がある

今後の展望

- 若い世代・外部人材の継続的な関わりづくり
- 無理なく続けられる仕組みづくり
- 地域資源の価値の言語化と発信

まとめ

地域内外のつながりが 集落の力になる

- 日常の中の関わりが変化を生む
- 外部との関係が地域の可能性を広げる

お願い

- 継続的な支援
 - 連携機会の創出
 - 情報発信のサポート
- など

集落支援員活動報告

～ 地域内外のつながりを育む取り組み ～

令和8年3月30日

農林水産課 田中あき